

1 単元名及び単元の目標

住みよいくらしをつくる

ごみのしゅりと利用

(11/14本時)

- ◎ ごみの処理にかかわる対策や事業に関心をもち、ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業とのかかわりやこれらに関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。

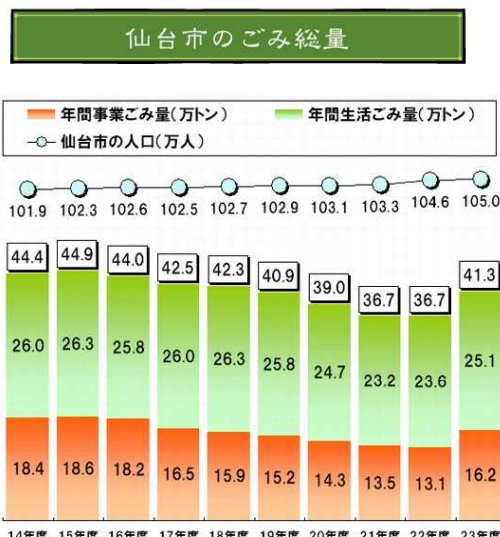
2 本研究授業の提案について

ごみの問題に対して自分たちにできることを考えさせる手だてとして、以下の二つを提案した。

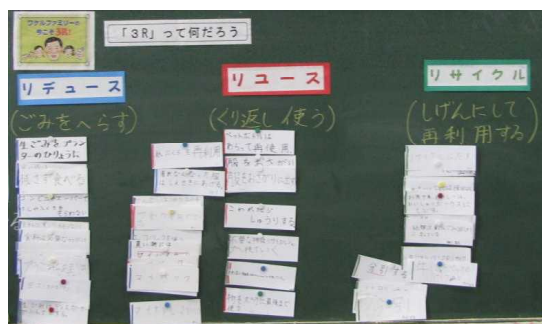
- (1) ごみ減量について考えるきっかけにするために、仙台

市の人口とごみの量の推移についてのグラフを提示した。人口は増加しているがごみの量は減少しており、その理由を考えるきっかけにしたことは有効であった。しかし、グラフが家庭ゴミと事業ゴミで色分けされており、ゴミの総量としては減っているのだが家庭ゴミの量は変化が少なく、迷っている様子の児童もみられた。既製のグラフではなくゴミの総量のためのグラフを作成し提示した方が考えやすかったと思われ、反省点である。

- (2) それぞれの家庭のゴミ減量の取り組みを前もってカードに書いておき、まずグループ内で発表し、類似している考えがある場合はその場でまとめるようにした。そしてそれらの取り組みが、3Rのどれに当たるのかを話し合い、三つに色分けして分類させた。マジックで色分けしたが、二つの要素がある物もあり、色別のシールを貼るなどの工夫が必要だった。



【資料1 ゴミの量の推移のグラフ】



【資料2 家庭で取り組むごみ減量カード】

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 仙台市のゴミの量の推移グラフを提示し、3Rの

浸透とごみの減量の関連から考えさせたかったが、その根拠を教える側でしっかり把握しておく必要があった。グラフの震災後のゴミの量の部分を伏せておき、授業の最後に震災後はゴミが増えていることを示し、次の授業の課題につなげることができた。

- (2) グループで集まった情報を、全体場で発表しながら集約した。グループ内での話し合いは家庭での取り組みの様子や学習したことを根拠に、それぞれが活発に意見を出し合っていた。しかし全体場の話し合いでは、3Rのどれになるのか迷う内容が出たときに、教師主導で振り分けてしまった。疑問点は子供に返し子供たちに議論させると、考える根拠も明確になり学習を深めることができたと思われる。子供の学習の積み重ねを信じて任せることができなかったことが反省点である。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は社会科において、資料の精選と話し合い活動を深めるためにカードを活用した授業に取り組んだ。資料の活用では写真・グラフとも、授業への興味関心を深め意欲を高めることには効果的だったが、思考が広がりすぎたり不要な情報が含まれていたりして、資料の選び方や提示の仕方に課題が残った。カードの活用では、キーワードが見やすくなり移動もしやすく、集約しやすくなり効果的だった。反面、カードの記入に時間がかかる、カードの枚数が多くなりすぎるなど、活用の仕方に工夫が必要だった。全体場での話し合いでは、子供の発言を生かす臨機応変な対応ができていないことを痛感した。